

平成 28 年度事業報告

(1) 糖尿病の予防及び治療に関する正しい知識の普及啓発事業

【市民、患者向け】

- 1-1 「糖尿病ライフさかえ」の発行
月刊の協会誌として 12 冊発行し、患者、家族、糖尿病予備群に対する糖尿病の正しい知識の情報提供と啓発を行った。
- 1-2 糖尿病関連書籍の発行
「糖尿病食事療法のための食品交換表」、「糖尿病食事療法のための食品交換表活用編」、「糖尿病性腎症の食品交換表」、「糖尿病治療の手びき」を発行した。
- 1-3 全国糖尿病週間の実施
11 月 14 日から 20 日の一週間を全国糖尿病週間とし、「健康長寿」のテーマのもと、日本糖尿病学会との共催で、各都道府県糖尿病協会で糖尿病に関する講演会、血糖測定、医療相談、栄養相談の事業を実施した。標語も募集し、「糖尿病と仲良く歩む いきいき人生」が採用された。
- 1-4 啓発イベントの実施
- ・「糖尿病シンポジウム」(10 月 16 日/長野市、10 月 23 日/札幌市)を実施し、約 1,000 人が参加した。北海道開催は「糖尿病啓発フェスタ」として大型商業施設を使用し、家族連れを中心に集客を行った。
 - ・「糖尿病予防キャンペーン」(11 月 6 日/宇都宮市)を日本糖尿病財団と共催で実施し、250 人が参加した。
 - ・「HbA1c 認知向上運動」(5 月 21 日/京都市)をサノフィ株式会社との共催で実施し、延べ 800 人が参加した。
 - ・「第 3 回チャレンジ!糖尿病いきいきレシピコンテスト」(6~7 月募集、10 月 9 日最終審査/表彰式)を実施し、栄養を学ぶ学生から 331 レシピの応募があった。入賞作品 12 レシピを掲載した「レシピブック」を制作し、全国糖尿病週間の期間中に市民に配布した。
 - ・「糖尿病とおいしく生きようプロジェクト いきいきライフクッキング」(10~12 月 全国 29 ヶ所)を MSD 株式会社との共催で実施し、糖尿病の講演と調理実習を行った。462 人が参加した。
- 1-5 世界糖尿病デー関連のイベントの実施
日本糖尿病学会・本協会が構成する世界糖尿病デー実行委員会に協力し、10 周年となる世界糖尿病デーの認知向上と糖尿病知識の普及啓発活動を推進した。国内のブルーライトアップ実施数は 183 ヶ所となった。マスメディアを対象に「世界糖尿病デー10 周年記念メディアセミナー」(11 月 14 日/東京都)を実施し、約 40 人の報道関係者が参加した。
- 1-6 Team Diabetes Japan
タートルマラソン (10 月 16 日)、JAL ホノルルマラソン (12 月 11 日) など国内外の大会に約 200 人が参加し、マラソンを通じて糖尿病予防や治療についての啓発を行った。チャリティウエアとして、新たにウインドブレーカーを制作した。販売収益金は小児糖尿病基金に寄付した。

1-7 ウォークラリーの実施

運動の重要性を周知する目的で、全国 44 ヶ所で「歩いて学ぶ 糖尿病ウォークラリー」をノボ ノルディスク ファーマ株式会社と共催した。参加者数は 6,158 人となった。運動療法の啓発行事を継続している点を評価され、「第 5 回 健康寿命を延ばそうアワード 厚生労働健康局長優良賞」を受賞した。

1-8 就労と治療の両立支援

糖尿病患者の就労と治療の両立を支援する目的で、両立支援の手引きを作成するための調査研究を行った。若い世代での糖尿病のイメージ向上を目指して、LINE スタンプの制作を検討した。

1-9 介護支援者向け

要介護の糖尿病患者を支援する目的で介護スタッフ向けの糖尿病勉強会を計画し、6 県で実施した。介護スタッフに必須の知識とケアマネジメントのポイントをまとめたテキストシリーズの第 1 巻（4 冊）を作成し、勉強会で使用した。

【医療者向け】

1-10 「DM Ensemble」の発行

医療者を対象とする「糖尿病療養指導のための DM Ensemble」を 4 冊／年発行した。購読者数は、約 3,500 人となった。また、第 4 回日本糖尿病療養指導学会の報告集を、「DM Ensemble」2016 年増刊号として発行した。

1-11 登録医・療養指導医・歯科医師登録医制度の展開

日本糖尿病協会登録医 1,547 人、療養指導医 2,630 人となった。また、歯科医師登録医の登録者数は 3,433 人となった。

1-12 日糖協 CDE ネットワークの運営

糖尿病チーム医療を支援するため、地域糖尿病療養指導士（CDEL）養成団体 31 団体に対し、計 21,100,000 円の補助金を支出したほか、規約・認定試験問題、教育資材の提供を通じて活動活性化と養成団体の新規設立を支援した。8 団体が新たに設立された。

第 4 回日本糖尿病療養指導学会で CDEL 団体の情報交換会を行った。

1-13 糖尿病カンパセーション・マップ™を活用した療養指導の普及

「糖尿病カンパセーション・マップ™」を使用して療養指導を行うスタッフを育成するためのファシリテータートレーニングとフォローアップを全国 18 か所で実施し、456 人の医療者が受講した。新たに合併症をテーマとするマップも導入した。

1-14 日本糖尿病療養指導学会の開催

糖尿病療養指導者の教育と情報交換を行う目的で、7 月 23-24 日の 2 日間、南條輝志男理事を会長に、日本糖尿病療養指導士認定機構との共催で第 4 回日本糖尿病療養指導学会を開催した。

「チーム力 UP！－自分にできること、自分にしかできないこと－」をテーマに 1,402 人の医療者が参加し、ディスカッションによる職種間の相互理解を深めた。会期中、新たに制定された日本糖尿病協会療養指導士賞各部門の表彰式も実施した。

1-15 地域での医療従事者対象啓発活動の支援

登録医・療養指導医・歯科医師登録医・CDE を対象とした講習会 783 件について、資格更新対

象講習会としての認定や後援等を行うとともに、医療従事者を対象とした糖尿病に関する適正医療の普及・啓発に向けた地域での活動を支援した。

1-16 医療者向け資料の作成・普及

- ・糖尿病療養指導に関わる医療スタッフの教育用 DVD シリーズ「食事療法と運動療法編」「薬物療法編」を制作し、各友の会ならびに登録医・療養指導医をはじめ、広く医療従事者、医療機関に配布した。
- ・糖尿病教室などで活用できる、患者参加型療養支援 DVD「フットケアのすすめ」3巻シリーズを制作し、各友の会をはじめ、広く医療従事者、医療機関に配布した。
- ・療養指導の新しいツールとして開発した療養指導カード（システム）の普及に向け、全国 11 か所で指導方法を学習する勉強会を実施し、約 450 施設から 853 人の医療者が参加した。

(2) 糖尿病の予防及び治療に関する調査・研究事業

2-1 調査研究

- ・「経口糖尿病治療薬(インクレチン関連薬を含む)投与に関する実態調査研究 (UNITE Study)」では、論文化の作業を行った。
- ・「65 歳以上の高齢者 2 型糖尿病における、シタグリプチンあるいはグリメピリドによる有効性および安全性に関する比較検討試験 (START-J)」では、11th IDF-WPR/7th AASD ならびに第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会にて口演発表を行った。また、論文を作成し、Diabetes, Obesity and Metabolism に採択された。
- ・「インスリン製剤とシタグリプチン併用による有用性の検討-前向き観察研究-(I-UNITE Study)」では、登録症例の追跡調査を実施した。
- ・「トログリフロジンの安全性および有効性の検討-前向き観察研究-(AYUMI)」では、参加施設募集、症例登録を継続して実施した。

2-2 糖尿病に関する基礎的・臨床的な研究を行う若手研究者に対する助成 申請課題より 10 題を採択し、助成を行った。

(3) 糖尿病の患者及び家族に対する療養指導事業

3-1 糖尿病友の会の活動支援

全国の糖尿病友の会の会員数増強を目指し、友の会紹介リーフレット等を作成・配布した。

3-2 糖尿病療養に役立つグッズ、冊子類の発行

製薬・医療機器企業等の協力を得て、糖尿病連携手帳、自己管理ノート、CSII ノート、ID カード、英文カード等の配布を行った。糖尿病性腎症重症化予防の取組みで糖尿病連携手帳の活用が奨励されたことから、市町村からの購入依頼が増加した。

3-3 小児 1 型糖尿病対策

- ・小児糖尿病キャンプの主催

小児 1 型糖尿病患児の医療教育を目的とするキャンプを全国 50 か所で主催し、1,194 人の受講者が参加し、5,075 人のボランティアスタッフが運営を支援した。日本財団を通じて、日本歯科医師会 TOOTH FAIRY から支援金を得て、各キャンプに補助金を支出した。

- ・サマーキャンプカンファレンスの開催

小児糖尿病キャンプの標準化とレベルアップを図るため、キャンプ実施責任者の会議を療養指導学術集会時に開催し、約 40 人が参加した。

- ・1 型糖尿病患者の就学にかかる調査

1 型糖尿病が理由で入園や就学に困難が生じたケースの実態と課題を把握し、教育現場への啓発などの支援策を実施するため、アンケート調査を実施した。

3-4 インスリンメンター制度

インスリン治療を行う患者にピアサポートを行うインスリンメンターを育成し、11ヶ所のキャンプに 8 人のヤングメンターを派遣した。

若年患者だけでなく、シニア層を支援できるシニアメンターを 2 人認定した。

(4) 糖尿病に関する海外関係団体との連携事業

4-1 IDF、IDF-WPR

10 月 27-30 日に台湾・台北市で開催された 11th IDF-WPR Congress に参加し、Council Meeting に出席するとともに、WPR Village でパネル展示や英文食品交換表の配布を通じて日本の糖尿病対策と協会活動を紹介した。

4-2 AASD

- ・運営助成金を支出するとともに、事務局業務、年次学術集会（台湾開催）の支援を行った。
- ・8th AASD Scientific Meeting にて、AASD 活動のパネル展示と調査研究のポスター発表を行った。
- ・AASD が実施するアジア地域のフットケア・栄養プロジェクトへの協力を行った。

(5) その他本協会の目的を達成するために必要な事業

5-1 会員増強

日本糖尿病協会の会員増強の活動を継続推進した。

5-2 サポーター制度の周知

個人の賛助会員であるサポーターの増加を目指し、周知活動を行った。サポーターは 7,696 人に増加した。

5-3 他団体との連携

- ・CDEJ および地域の CDE 組織

各地で組織されている「地域糖尿病療養指導士」養成団体と連携し、CDE ネットワークによる地域の CDE の育成協力と活動支援を行った。

- ・日本歯科医師会

歯科医師登録医制度を拡充するため、日本歯科医師会との連携を促進した。日本歯科医師会が日本財団と実施する TOOTH FAIRY プロジェクトから歯科医師・歯科衛生士 計 41 人にボランティア参加をいただいた。

- ・日本糖尿病対策推進会議

日本糖尿病対策推進会議の幹事団体として、「糖尿病治療のエッセンス 2017 年版」の発行に協

力した。また、糖尿病性腎症重症化予防の取組みを推進した。

- ・日本介護支援専門員協会

「要介護支援症例に携わるスタッフの糖尿病勉強会」の開催や、糖尿病テキストの制作で連携した。

- ・ライオンズクラブ

大阪市で活動するライオンズクラブにて糖尿病講演会を開催し、会員の知識啓発を行った。

5-4 災害時危機管理対策

- ・平成28年熊本地震

理事長を本部長とする災害対策本部を事務局に設置し、日本糖尿病学会・熊本大学・熊本県糖尿病協会と連携して情報収集や被災地支援を行った。インスリン製剤企業の協力を得て、インスリン製剤を被災地に提供した。

- ・防災意識啓発ミニチラシ配布

平時から災害に備える目的で、インスリンの分散保管を啓発し、災害時の緊急連絡先等を記載したミニチラシ配布事業を新潟県で実施した。新潟県薬剤師会とインスリン製剤企業の協力を得て、1,189薬局を通じて12,740枚のミニチラシを患者に配布した。

5-5 広報事業

- ・日糖協の認知度を向上させ事業効果を高める目的で、マスメディアに対する広報として、8本のプレスリリースを配信。レシピコンテスト、クッキングスクール企画などが新聞掲載された。

- ・ホームページ、facebook、メールマガジンでの情報発信

ホームページをリニューアルし、スマートフォン対応とした。facebookは、6人の医療者が毎日記事を投稿し、公益法人最多の「いいね！」数(26,783)を獲得した。

- ・公式イメージキャラクター「マールくん」の使用規定を制定し、広範に使用できるようにした。

5-6 糖尿病医薬品・医療機器等適正化

- ・糖尿病用注射製剤の製剤区分表示において、各社共通の製剤区分マークを制作した。

- ・注射針など在宅医療廃棄物の適正処理を促進するため、啓発方法を検討した。

- ・血糖測定器の精度管理を周知するため、患者向け情報を「さかえ」に掲載した。

5-7 表彰事業

日本糖尿病協会賞(アレテウス賞、パラメデス賞、ウイリアム・カレン賞、功労賞、立川俱子賞)小児糖尿病関連賞(ガリクソン賞、小児糖尿病功労賞)、国際交流研究奨励賞の選考と表彰を行った。新たに職種別の療養指導士賞を制定し、選考と表彰を行った。

(6) 業務の適正を確保するために必要な体制の整備

- ・平成28年9月4日の第3回通常理事会にて、表彰規則を修正した。

平成28年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。